

石狩川中流域市町紹介

<p>深川市</p>	<p>人口 27,579人 面積 529.23K㎡ 市名の由来 市名の由来は、深川原野を貫流していた大鳳川(アイヌ語でオオホ・ナイ、深い川)が語源といわれている。 市の花、木 シラカバ、キク</p>	<p>概況 明治22年、上川道路(現国道12号(札幌-旭川間))が開通し、同年、華族組合雨竜農場が設立されるなどにより開拓が始まった。大正7年、深川村が町制施行。昭和38年、隣接4町村が合併し深川市となった。また、昭和45年多度志町を合併し現在に至る。基幹産業は、農業であり石狩川と雨竜川の流域に広がる肥沃な土壌と恵まれた気象条件のもと道内有数の稲作地帯である。</p>
<p>滝川市</p>	<p>人口 46,861人 面積 115.82K㎡ 市名の由来 市名の由来は、アイヌ語の「ソーラプチ」=「滝下る所」を意訳したものである。また、空知川の中流には滝のような段差がありアイヌの人々から「ソーラプチベツ」=「滝のかかる川・滝の川」と呼ばれており、滝川という地名がつけられた。 市の花、木 コスモス、ツツジ、ブラタナス</p>	<p>概況 明治23年滝川村を設置。明治43年滝川町となり、昭和33年滝川市となる。昭和46年江部乙町と合併し、現在の滝川市となる。石狩川と空知川の合流点に位置し、古くから人と物資の中継点として、流域の中心として発展し、現在でも中空知広域圏の商業や文化の中核都市として発展している。市域は平地が広く、田畑が占める穀倉地帯であり、米作のほかタマネギやりんごの栽培も行われている。河川敷を利用した様々な施設があり、中でも「滝川スカイパーク」のグライダーは全国的にも有名である。</p>
<p>砂川市</p>	<p>人口 21,072人 面積 78.69K㎡ 市名の由来 市名の由来は、アイヌ語のオタ・ウシ・ナイを意識したものである。「オタ」は砂、「ウシ」は多い、「ナイ」は川を意味し、石狩川と空知川に抱かれるような地形の砂川には、上流に歌志内を源とする「バンケオタウシナイ川」と、下流に市街の中央を流れる「バンケオタウシナイ川」があり、アイヌ語の地名「オタウシナイ」が生まれたものと考えられている。 市の花、木 ナナカマド、スズラン</p>	<p>概況 明治23年奈江村が設置され、同36年に砂川村と改称された。大正12年に町制が施行され、昭和19年奈江村(現在の奈江町)と同24年に上砂川町を分離し、同33年に砂川市となる。市街地は国道12号を沿いに広がり、南部は大型の工場、北部に自動車関連の企業が進出している。南北に平地が広がり、米やタマネギなどの農業も営まれている。旧川跡地を利用した洪水調整池を砂川遊水地「オアシスパーク」として整備し、遊水施設、オートスポーツ、ゴルフ場などが設置されている。また北東部には「北海道子どもの国」があり、キャンプのほか自然の中で遊べる施設が整っている。また行政人口一人当たりの公園面積が日本一である。</p>
<p>赤平市</p>	<p>人口 15,743人 面積 129.88K㎡ 市名の由来 市名はアイヌ語で「山稜のガケ」の意。 市の花、木 カエデ、キク</p>	<p>概況 明治23年入植者により開墾され、大正11年歌志内村から分村した。昭和18年に町制を施行し、同29年に赤平市となる。昭和10年以降は産炭地として隆盛するが、昭和30年代相次ぐ炭鉱の閉山により人口が減少する。現在では、米作、畑作を中心とした農業も行われる。</p>
<p>妹背牛町</p>	<p>人口 4,232人 面積 48.55K㎡ 町名の由来 アイヌ語で『イラクサの生い茂るところ』の意の『モセユーセ』より転じた町名の由来である。 町の花、木 ツツジ、ナナカマド</p>	<p>概況 明治26年より侯爵須賀茂郎、侯爵菊亭修季ら華族により農場開拓が行われた。大正12年深川町から分村して、妹背牛村となり、昭和27年妹背牛町となった。総面積48.55㎢と北海道では3番目に小さい町。山がなく平坦な地形に豊かな美しい田園風景が広がる。米作が盛んで近年は花の栽培でも知られるようになった。また、昭和52年妹背牛商業高校女子バレーボール部が全国制覇を成し遂げて以来、「バレーの町もせうし」としても名を馳せる。</p>
<p>雨竜町</p>	<p>人口 3,601人 面積 190.91K㎡ 町名の由来 雨竜(うりゅう)とは、アイヌ語の地名「ウリロベツ」(鵜の多い川という意味)より転訛しもので、雨竜川の河口に多くの鵜が生息していたことから、このような名が付けられたといわれている。 町の花、木 ダリア、トドマツ</p>	<p>概況 明治25年雨竜町が設置され、同32年に北竜村と分村し、昭和36年に雨竜町となる。基幹産業は稲作が主体となり、近年ではメロンなどの作付けも行われている。町の西側には標高1,491mの暑寒別岳を頂点とする暑寒別連峰がそびえ、標高850mの地点に「雨竜沼湿原」がある。尾白利加川をせき止めて造られた人造湖「暑寒湖」(暑寒別天売焼尻国定公園指定)も見所の一つ。</p>
<p>新十津川町</p>	<p>人口 8,067人 面積 495.62K㎡ 町名の由来 移民の出身地、奈良県吉野郡十津川村に因んで、新十津川とした。 町の花、木 オンコ、ツツジ</p>	<p>概況 明治23年奈良県十津川村から移住した移民により新十津川村を開村。昭和32年に新十津川町となる。肥沃な大地で農業生産に適した地域である。基幹産業の農業は水田中心の稲作から、メロンやアスパラガスなどの生産にも至る。町の南西部にそびえる標高1,100mのピンネシリは、初級者も登山が楽しめる山で頂上からは暑寒別連峰や石狩湾が望める。</p>

※人口はH12年「国勢調査」(総務省)による

石狩川
 広く
 大きく
 悠々と
 空知の大地を
 流れる大河
 母なる川の
 音を聴こう
 流れのままに
 行こう

